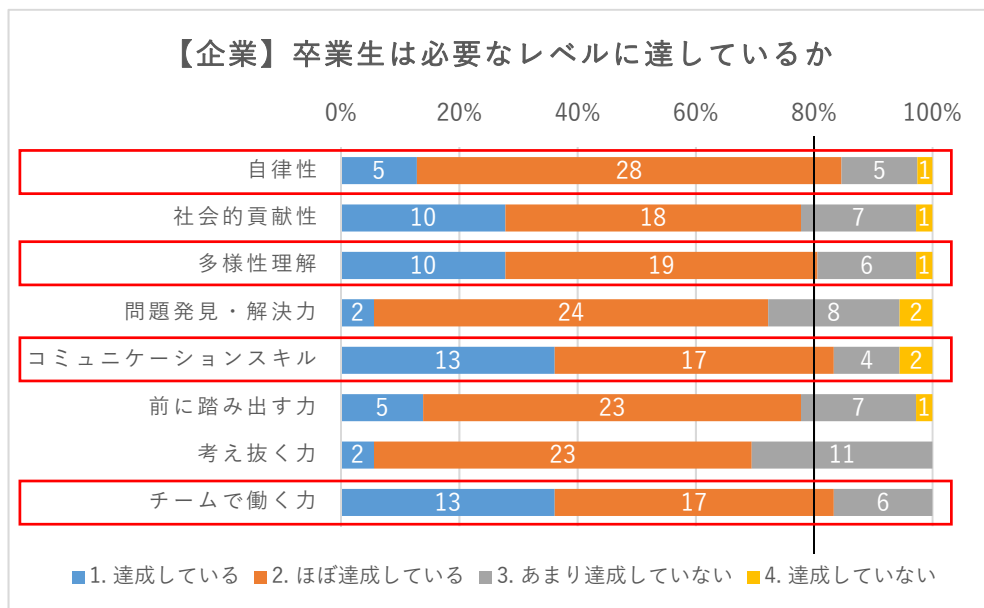




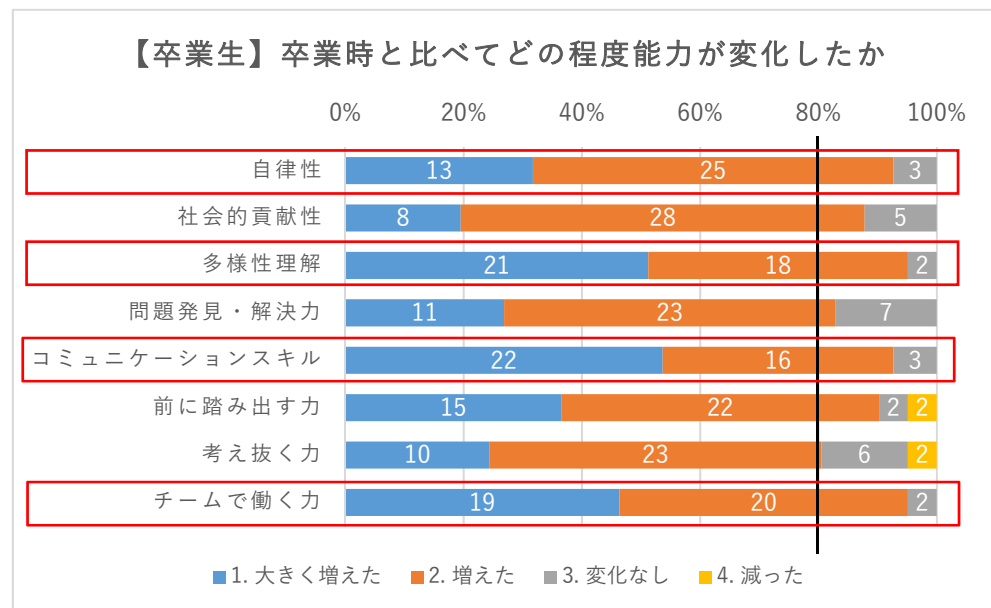
❖ 調査結果 1：就職先企業・団体向け調査、卒業生向け調査

Q. 8つの能力・資質について：

[企業調査] 本学の卒業生は貴社に必要なレベルに達しているか。



[卒業生調査] 卒業時と比べてどの程度能力が変化したか。



企業調査では、半数の項目で「達成+ほぼ達成している」回答が約8割以上となっている。卒業生調査では、全ての項目で能力が「大きく増えた」「増えた」が8割を超えた。

○企業調査

- ・達成率8割以上：「自律性」「多様性理解」「コミュニケーションスキル」「チームで働く力」
- ・達成率8割以下：「問題発見・解決力」「考え抜く力」

○卒業生調査

- ・達成率8割以上：全ての項目
- ・特に達成度の高い項目：「自律性」「多様性理解」「コミュニケーションスキル」「チームで働く力」

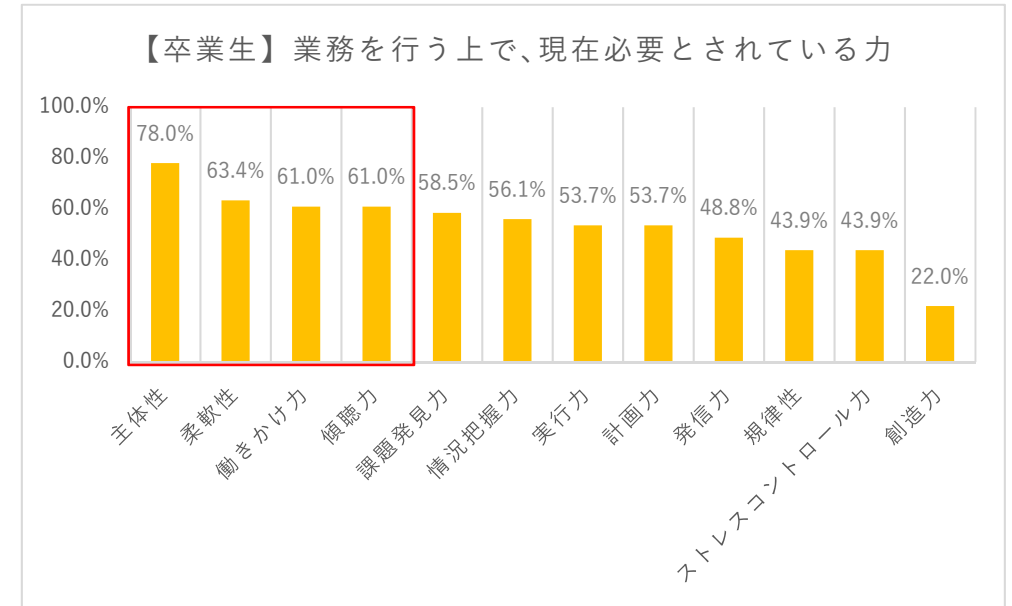
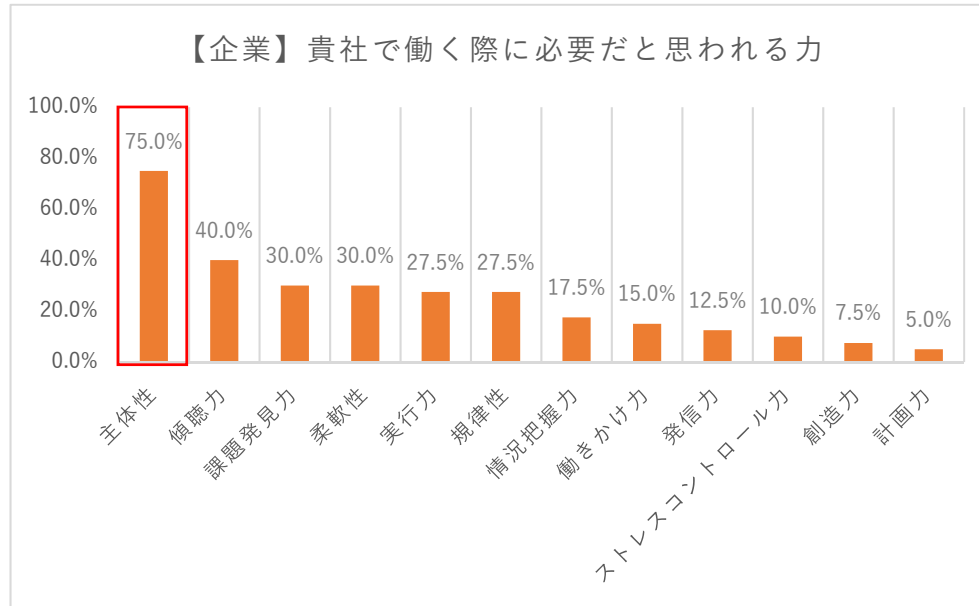
◎就職先企業と卒業生で、評価の高い項目が重なっている。

◎「問題発見・解決力」「考え抜く力」は、他の項目に比べ、卒業生、就職先企業ともに、評価が低めである。

Q. 「社会人基礎力」について

[企業調査] 貴社で働く際に特に必要だと思われるものを選択（上位3つ）

[卒業生調査] 業務を行う上で、現在必要とされている力を選択（複数選択可）



企業調査では、働く際に必要な力として「主体性」が突出している。一方、卒業生調査では、業務上必要とされている力として「主体性」が最も高い点は企業調査と同様であるが、「創造力」を除くその他の能力も必要であると感じている人の割合が比較的高い。

○企業調査

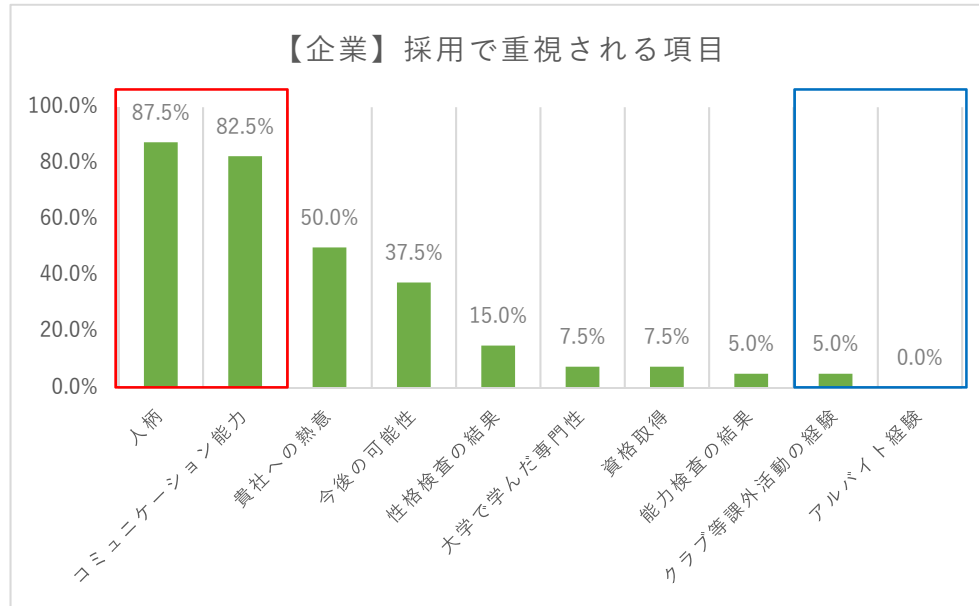
- ・働く際に特に必要だと思われる力：「主体性」（75%）
- ・次いで「傾聴力」「課題発見力」「柔軟性」と続くが、すべて4割以下の回答

○卒業生調査

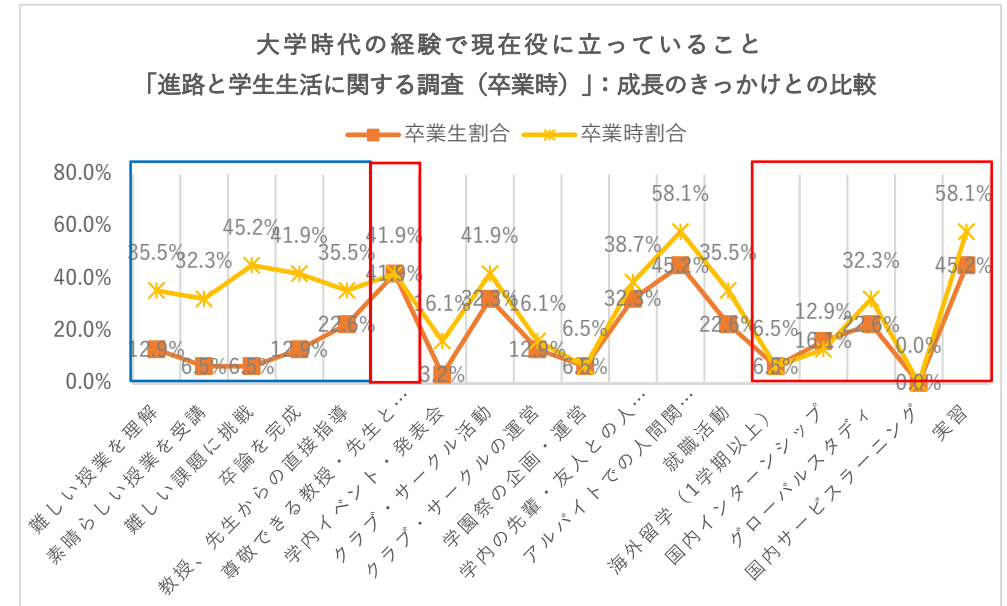
- ・業務を行う上で必要とされている力：「主体性」（78%）、次いで「柔軟性」「働きかけ力」「傾聴力」が6割以上の回答

◎就職先企業は、働く上で「主体性」を強く求めているのに対して、卒業生は「主体性」を筆頭にそれ以外の能力も満遍なく求められていると感じている。

Q. [企業調査] 採用選考で重視される項目（上位3つ）



Q. [卒業生調査] 大学時代の経験で、現在役に立っていること（3つ選択）



※「進路と学生生活に関する調査（卒業時）」と「卒業生調査」両方の回答がある学生での集計（n=31）

- ・「人柄」「コミュニケーション能力」を重視する企業が8割以上
- ・「クラブ等課外活動の経験」「アルバイト経験」の割合は低い

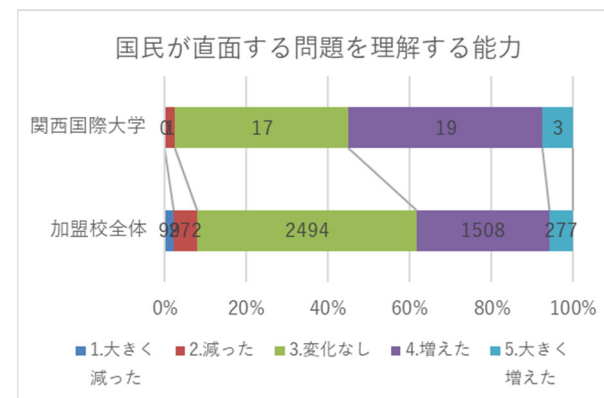
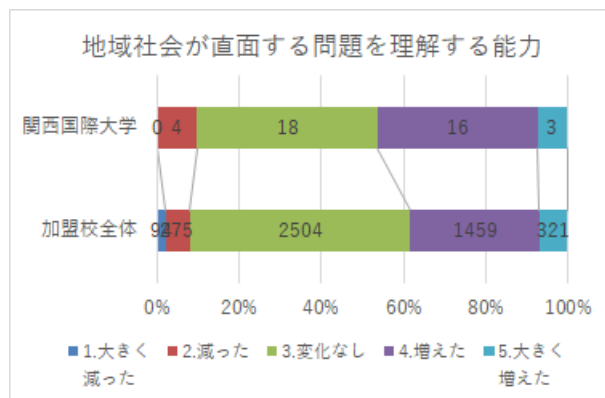
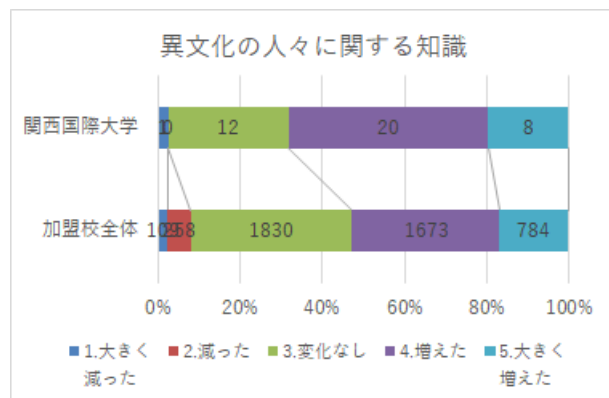
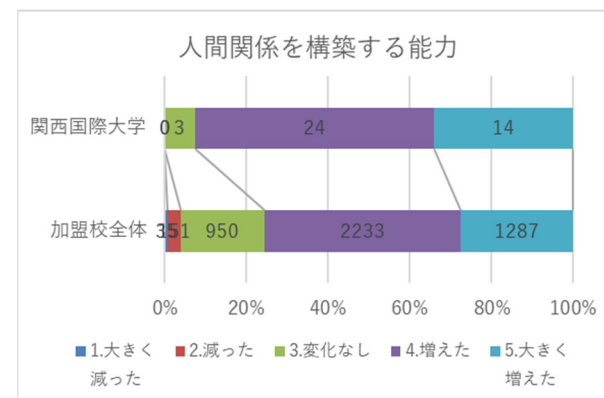
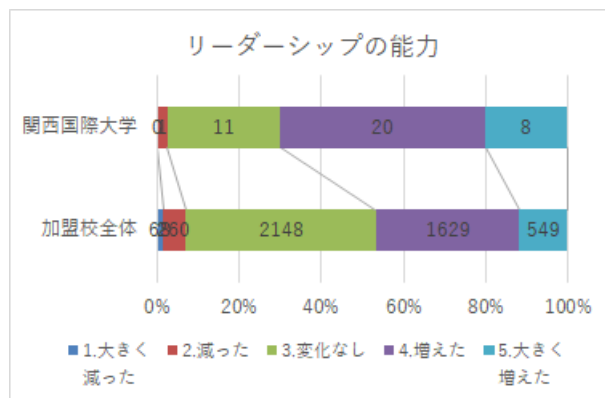
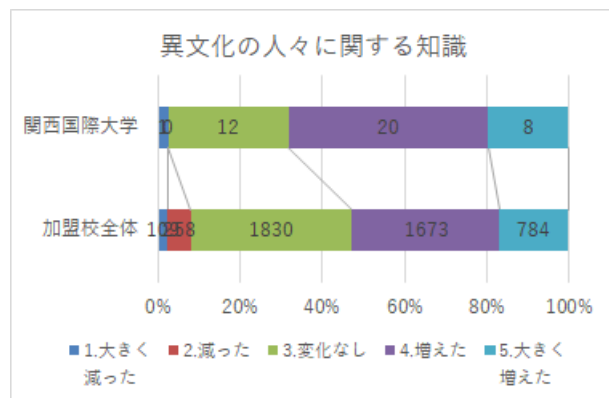
- ・成長のきっかけとして卒業時は挙げられていた「授業に関する項目」は、卒業後はあまり役に立っていると感じられていない。
- ・「尊敬できる教授・先生との出会い」は、成長のきっかけ、役に立っているとともに割合に変化なし。
- ・「クラブ・サークル活動」「アルバイトでの人間関係」「国内インターンシップ」「グローバルスタディ」などの経験も、大きな変化なし。

◎「教員との出会い（関係性）」や「経験学習」などの経験は、長期的に影響があるのではないか。

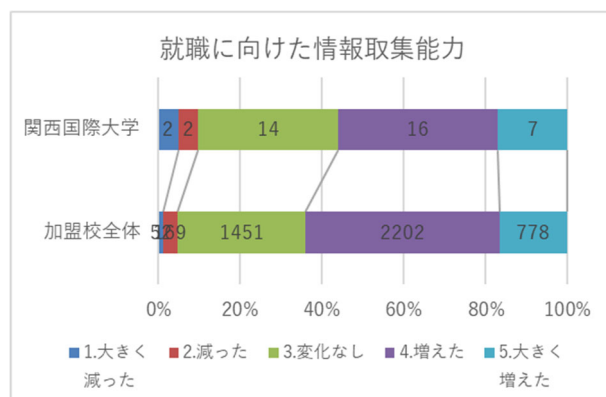
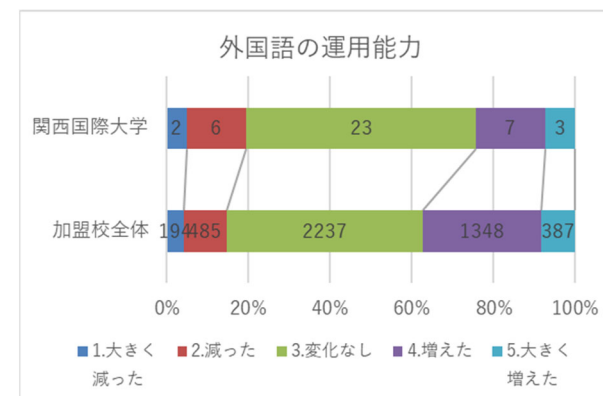
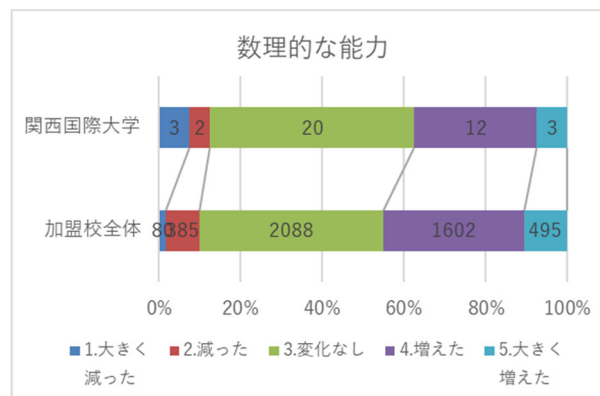
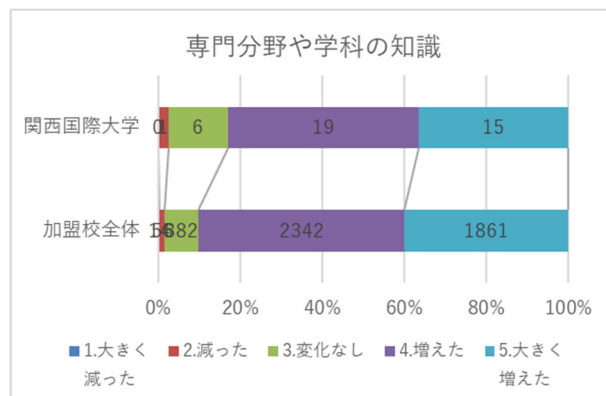
❖ 調査結果 2：他大学との比較（大学 IR コンソーシアム「卒業生調査」公開データとの比較）

Q. [卒業生調査] 在学中を振り返って、知識や能力はどのように変化したか

○増えた実感が高い項目



○改善を要する分野項目



多くの項目で加盟校全体と同等かそれ以上の割合で知識や能力が「大きく増えた」「増えた」と感じている。

- ・上回っている項目：「異文化理解」に関する項目、「リーダーシップ」、「他者理解・協働」に関する項目、「コミュニケーションの能力」など
- ・下回っている項目：「専門分野の知識」「外国語の運用能力」「数的な能力」など

◎在学中の調査（大学 IR コンソーシアム学生調査）と卒業生調査の結果ともに、加盟校全体と比べて増えたと感じている知識や能力の項目はほぼ同じ。

⇒長期的な効果があることがうかがえる。

◎経験学習やアクティブラーニングをはじめ、本学の教育を通して在学中に伸びた能力は、長期的に（卒業後も）影響していることがうかがえる。